



2023年度 環境経営レポート

対象期間 2023年9月～2024年8月 <39期>

発行 2025年2月28日



sanwa
株式会社 三和興業



エコアクション21[®]
認証番号 0009575

目 次

1.	組織の概要	p. 2
	1) 会社概要	
	2) 認証登録範囲	
	3) 対象組織図	
	4) 許認可	
	5) 処理工程図	
2.	環境経営方針	p. 7
3.	2023年度(令和5年度)及び中期環境経営目標、 当年度の目標対実績と判定、次年度の環境経営目標	p. 9
4.	当年度環境経営計画の取組結果とその評価 及び次年度の環境経営計画	p. 10
5.	その他 サステナビリティ	p. 13
6.	環境関連法規などの遵守状況及び違反、訴訟等の有無	p. 13
7.	代表者による全体評価と見直し・指示	p. 14

1. 組織の概要

1) 会社概要

会社名	株式会社 三和興業
代表者	代表取締役社長 大山 哲寿
所在地	■本社 〒813-0044 福岡市東区千早2丁目2-43 TEL 092-671-1855 FAX 092-681-7004 URL www.sanwa-iec.co.jp MAIL info@sanwa-iec.co.jp ■篠栗SRC 〒811-2404 福岡県糟屋郡篠栗町大字内住4156-35 TEL 092-957-4900 FAX 092-948-2668 □飯塚SEC 〒820-0713 福岡県飯塚市内住流山3599-29 TEL 0948-72-3242 FAX 0948-72-3439 □古賀営業所 〒811-3115 福岡県古賀市久保588 TEL 092-942-7110 FAX 092-942-7420 ※篠栗SRC部門には飯塚SECと古賀営業所を含む
創業	1963年（昭和38年）4月
資本金	3,000万円
従業員数	103人（2024年 8月末）
売上高	4,441百万円（2024年8月決算）
事業年度	9月1日～翌年8月31日（今回の経営レポート対象期間：2023年9月～2024年8月）
延床面積	2,212㎡
環境管理責任者及び担当者	責任者 篠栗SRC副所長兼営業部部長 坂本 晃一 TEL 092-957-4900 担当者 本社総務部主任 釘島 太郎 TEL 092-671-1855
事業内容	・解体工事 ・産業廃棄物収集運搬、産業廃棄物処分（中間、最終）
事業登録	建設業許可 福岡県知事許可（特-2）第59855号 建築工事業、解体工事業、とび・土工工事業 古物商許可 福岡県公安委員会 第901151210071号（平成24年9月24日）

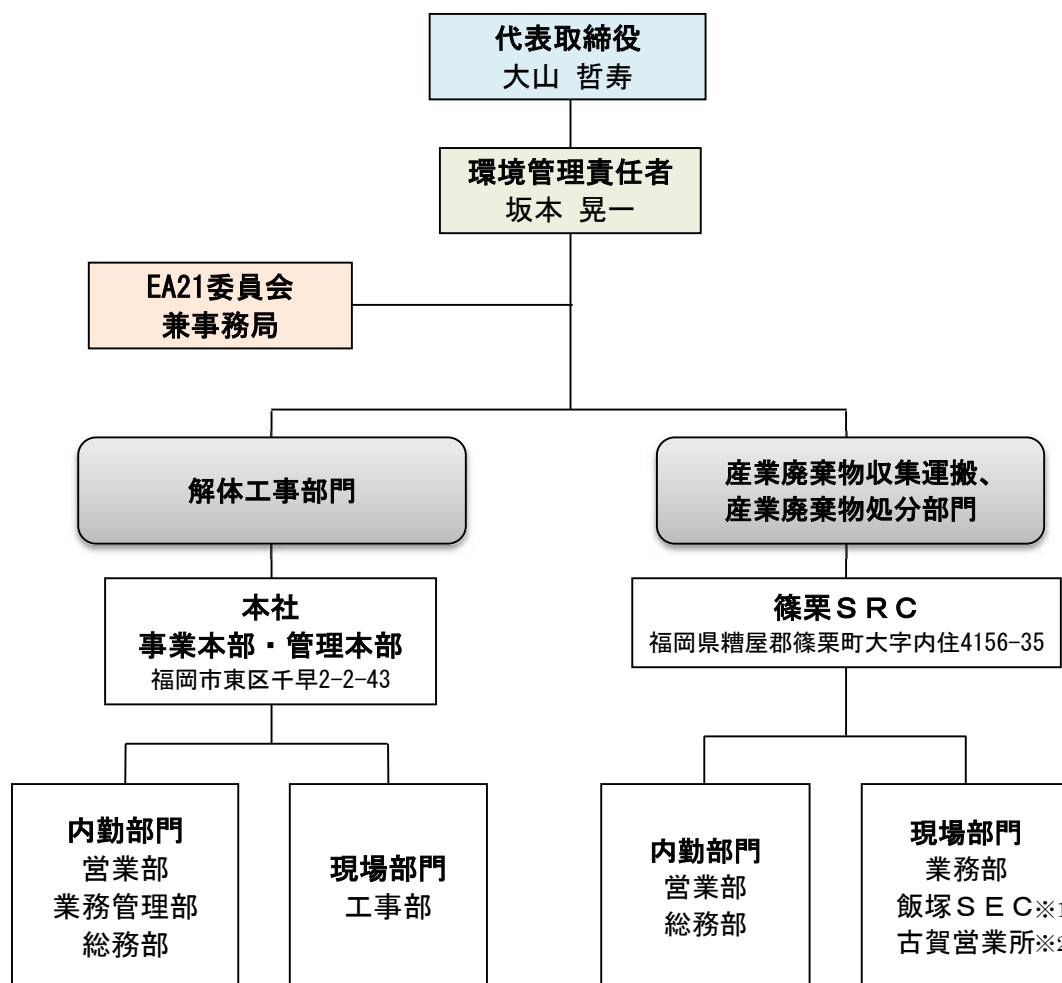
2) 認証登録範囲

対象事業所名	株式会社 三和興業
対象サイト	全組織・全活動
対象事業活動	・解体工事 ・産業廃棄物収集運搬、 産業廃棄物処分（中間、最終）



1. 組織の概要

3) 対象組織図



※1 福岡県飯塚市内住流山3599-29

※2 福岡県古賀市久保588

(役割分担表)

所 属 (役職)	役割・責任・権限・使命
代表者	全体の統括、環境方針の設定、環境への取組みを実施するための資源の準備、全体の評価・見直し
環境管理責任者	環境に関する事柄全体の把握／環境経営システムを構築・運用し、その状況を代表者に報告
エコアクション21委員会	環境目標の達成状況及び活動計画の実行状況を審議し社内へ発表 環境管理責任者を補佐して環境経営システムの維持・改善を行う 文書及び記録類の作成・維持・管理 内部環境監査に係る業務
各部門	電力・水・社用車等燃料消費量、一般及び産業廃棄物の廃棄量・リサイクル率の管理 委員会からの連絡窓口 指摘・周知された事項について、各従業員へ周知

1. 組織の概要

4) 許認可

■産業廃棄物収集運搬業

県・ 政令市	優良認定	積替え保管	許可番号	許可年月日 及び 有効期限	許可品目																
					木くず	ガラスくず等	がれき類	廃プラスチック類	金属くず	紙くず	繊維くず	ゴムくず	汚泥	燃え殻	廃油	廃酸	廃アルカリ	動植物性残さ	鉱さい	ばいじん	動物のふん尿
福岡県	○	○	04010020039	2023年9月18日 2030年9月17日	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
佐賀県	○	－	04103020039	2023年9月10日 2030年9月9日	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	／
大分県	○	－	04407020039	2021年4月28日 2028年4月27日	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	／
長崎県	○	－	04200020039	2023年5月23日 2030年5月22日	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	／
熊本県	○	－	04305020039	2021年7月22日 2028年7月21日	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○	／	／	／	／	／	／	／	／
宮崎県	○	－	04503020039	2024年3月5日 2031年3月4日	○	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	／	／	／	○	／
鹿児島県	○	－	04603020039	2023年6月10日 2030年6月9日	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○	○	○	○	○	／	／	○	／
山口県	○	－	03500020039	2019年3月13日 2026年3月12日	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	／	／	◎	／	／
岡山県	－	－	03300020039	2020年9月1日 2025年8月31日	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	／

◎石綿含有産業廃棄物を含む

■特別管理産業廃棄物収集運搬業

県・政令市	優良認定	積替え保管	許可番号	許可年月日 及び有効期限	許可品目							
					廃油	廃酸	廃アルカリ	廃石綿等	鉱さい	ばいじん	燃え殻	汚泥
福岡県	○	-	04050020039	2021年4月26日 2028年4月25日	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
佐賀県	○	-	04153020039	2021年4月14日 2028年4月13日	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
熊本県	○	-	04355020039	2023年10月4日 2030年8月16日	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
宮崎県	○	-	04553020039	2019年8月31日 2026年8月30日	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
大分県	-	-	04457020039	2020年3月9日 2025年3月8日	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
長崎県	-	-	04250020039	2020年3月18日 2025年3月17日	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
鹿児島県	-	-	04651020039	2020年3月27日 2025年3月26日	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
岡山県	-	-	03350020039	2020年9月1日 2025年8月31日	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

■積替え保管施設

保管場所所在地		福岡県飯塚市内住字用意ノ元2941番6										
保管場所面積		54平方メートル										
産廃の種類 (積替保管上限)	廃類	ガラス等	紙屑	木屑	繊維屑	がれき	金属屑	汚泥	積上げる ことので きる高さ			
石綿含有廃棄物に限る	◎ (11.25m3)	◎ (11.25m3)	◎ (11.25m3)	◎ (11.25m3)	◎ (11.25m3)	◎ (11.25m3)			1.5m			
蛍光灯・廃HID・廃放電ランプに限る	◎ (8m3)	◎ (8m3)					◎ (8m3)		1m			
廃一次電池及び廃標準電池に限る							◎ (1m3)	◎ (1m3)	1m			

■運搬車両一覧

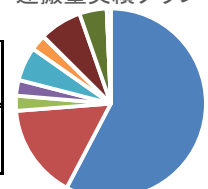
車両の名称	合計台数
バン	1
キャブオーバ	18
脱着装置付コンテナ専用車	14
ダンプ	16
ダンプセミトレーラ	1
トラクタ	2
セミトレーラ	2
【合計】	54

■年間運搬量実績

産業廃棄物種類	アスコン 殻	ガラス 屑等	金属屑	紙屑	木屑	石膏 ボード	繊維屑	廃プラス チック類	混合 廃棄物	水銀使用 製品	石綿含有 廃棄物	総合計
2023年度	51,981	14,498	2,277	2,402	5,239	2,368	48	6,500	4,180	2	629	90,124

単位：t

運搬量実績グラフ



1. 組織の概要

4) 許認可

■産業廃棄物処分類

県・政令市	優良認定	許可番号	許可年月日 及び 有効期限	許可品目									
				事業の区分	木くず	ガラス等	がれき類	廃プラスチック類	金属くず	紙くず	繊維くず	ゴムくず	
福岡県	○	04040020039	2023年9月18日	中間処理	破碎	○	○	○	○	○	○	○	○
					選別	○	○	○	○	○	○	○	
					圧縮梱包				○		○		
			2030年9月17日	最終処分(埋立)		○	○	○	○			○	

■産業廃棄物 種類別処理施設

産業廃棄物種類	処分方法	処理能力	施設名称・所在地
コンクリートがら	破碎	640 t / 日	(株)三和興業 篠栗SRC 福岡県糟屋郡篠栗町大字内住字尾花4156番29
アスファルト・コンクリートがら	破碎	640 t / 日	
その他がれき類・ガラス屑・コンクリート屑及び陶磁器屑	破碎 選別	640 t / 日 196 t / 日	
その他がれき類・ガラス屑	破碎	がれき140t/日 ガラス106t/日	(株)三和興業 篠栗SRC 福岡県糟屋郡篠栗町大字内住字尾花4156番6
廃プラスチック類	破碎 選別 圧縮梱包	20.8 t / 日 196 t / 日 286 t / 日	
金属くず	破碎 選別	24.2 t / 日 196 t / 日	
紙くず	破碎 選別 圧縮梱包	21.4 t / 日 196 t / 日 312 t / 日	
木くず	破碎	46 t / 日 52.3 t / 日	
繊維くず	破碎 選別 圧縮梱包	21.4 t / 日 196 t / 日 450 t / 日	
廃石膏ボード	選別	40 t / 日	(株)三和興業 飯塚SEC 福岡県飯塚市内住字用意ノ元2941番6
混合廃棄物 (安定型及び管理型品目含む)	破碎 選別	196 t / 日	(株)三和興業 篠栗SRC 福岡県糟屋郡篠栗町大字内住字尾花4156番6
石綿含有廃棄物 (がれき類・廃プラスチック類・ガラス陶磁器)	安定型 埋立	埋立面積 19,583m ² 埋立容量 138,227m ³ 残容量 27,731m ³	(株)三和興業 飯塚SEC 福岡県飯塚市内住字流山3599番29外15筆

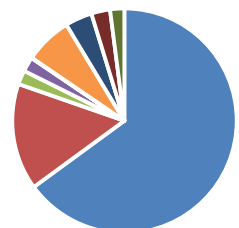
■年間中間処理・最終処分量実績】

※木屑、廃プラ、紙屑、ガラス屑等、繊維屑の混合

単位：t

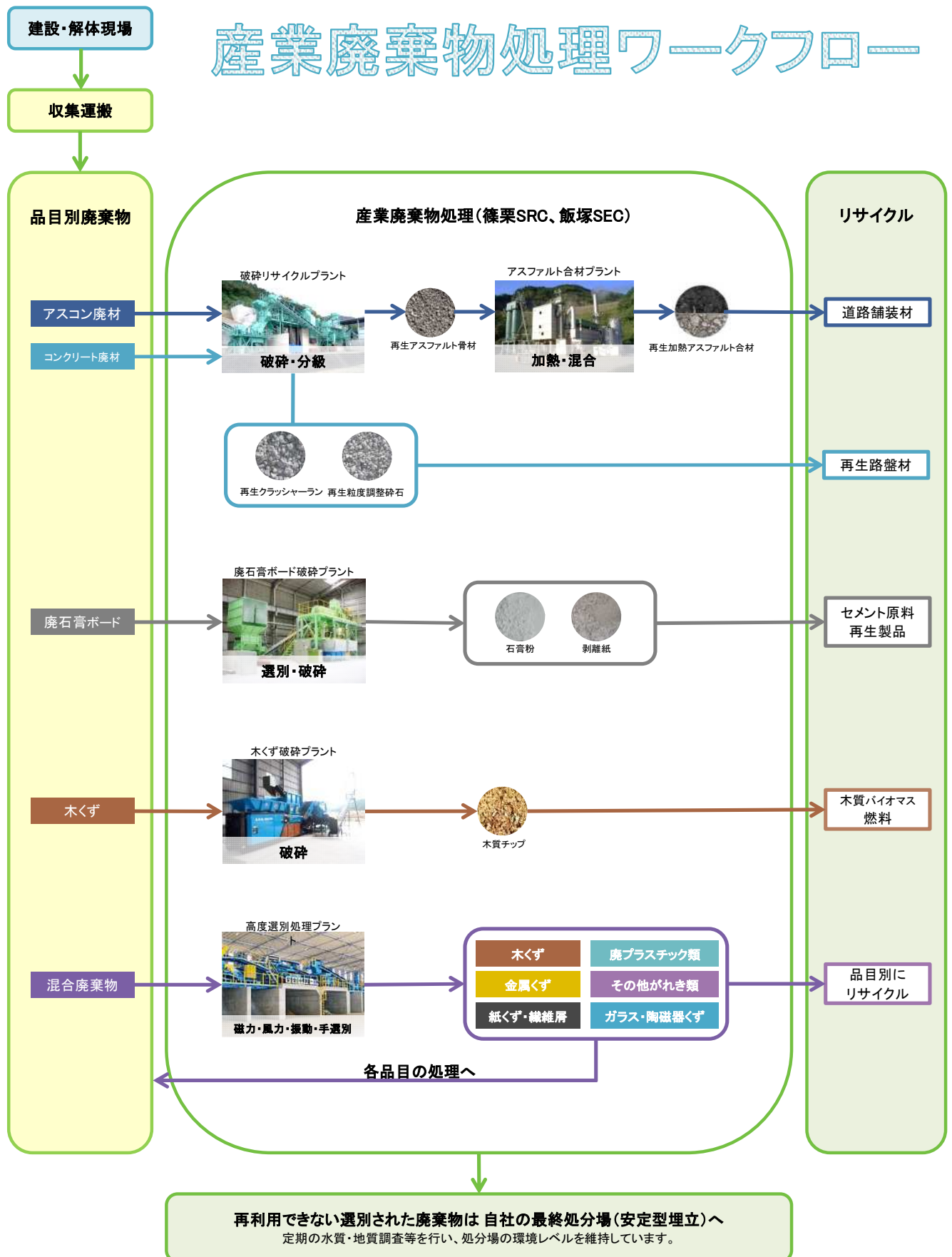
中間処理・最終処分量実績

年度	産廃種別 処理方法	アスコン	ガラス屑等	金属くず	紙屑	繊維屑	廃プラ	混合 廃棄物 ※	木屑	石膏 ボード	石綿含有 廃棄物	総合計
2022年度	中間処理	82,907	19,553	2,630	2,666	80	8,683	4,979	3,461	2,636	△	127,595
2023年度	最終処分 (安定型埋立)	△	△	△	△	△	△	△	△	△	338	338



1. 組織の概要

5) 処理工程図



2. 環境経営方針

「持続可能な社会で人々を幸せに」

三和興業は、「環境保全」を経営における最重要課題と位置づけています。リサイクル事業の「3R」をベースにゼロエミッションを究極の目標として、再資源化の促進、CO₂の排出抑制、さらに再生可能なクリーンエネルギー事業の推進を図ります。

環境への取り組みを具体化し、以下の方針のもと活動を展開しています。



環境経営方針

基本理念

株式会社三和興業は、企業理念「持続可能な社会で人々を幸せに」に基づき、解体工事や産業廃棄物処理を通じて全社員で一致協力し、地球環境保全と経済成長が両立する持続可能な社会の実現を目標に環境経営の継続的改善を図りながら企業活動を進めます。この環境方針は、社員全員に周知するとともに、広く一般へ公開します。

行動指針

環境経営システムを構築、環境負荷の低減に向けて運用する為に下記の事項を重点的に取り組みます。

1. 産業廃棄物の分別を徹底し、資源としてリサイクルを推進します。
2. 機材の維持管理を徹底し、資機材の長寿命化に取り組みます。
3. 電力の使用削減に取り組みます。
4. 化石燃料の使用量削減に取り組みます。（エコドライブの推進、使用重機のハイブリッド・電氣化の推進）
5. 事業活動に関する環境関連法規等を遵守します。
6. 協力業者にも本取り組みを理解して頂き、共に活動していただくよう推進していきます。
7. 現場や会社周辺の清掃を行い、周辺地域の美化と環境意識の向上に努めます。

制定日：2019年9月1日

株式会社 三和興業
代表取締役

大山 哲寿

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



三和興業は事業活動や社会貢献活動を通じ、SDGsの課題解決に向けて負の影響を最小化、正の影響を促進させて積極的に取り組みます。

私たちは解体・産業廃棄物処理のエキスパートとして、持続可能な開発に向けて大きく貢献できる事業であることを認識しています。解体工事で発生する廃棄物の再資源化による循環型社会への貢献はもちろん、事業活動による発生する二酸化炭素の削減（負の影響を最小化）や太陽光を中心としたクリーンエネルギー事業（正の影響を最大化）によって脱炭素社会に貢献します。さらに、環境面だけでなく、社会・経済と統合的に世界共通の課題解決に貢献できるように、ステークホルダーと関係性をさらに発展させ、私たち三和興業にできることを一つ一つ取り組んでいます。



3. 【2023年度(令和5年度)及び中期環境経営目標】、 【当年度の目標対実績と判定】、 【次年度の環境経営目標】

全社

■2023年度は中期(3年)の最終年であるので、2020年度基準値と目標・実績・判定結果を示した。

■COP26における日本の温室効果ガス削減目標(注)を照準にして、長期環境経営目標を設定した。(注:2030年に、2013年比46%削減)

環境経営目標		対象部門	単位	長期基準年度	経営目標基準年度	2023(令和5)年度及び中期環境経営目標					次年度の環境経営目標		長期環境経営目標
				2013(H25)年度	2020(R2)年度	2021(R3)年度	2023(R5)年度(中期の3年目)				2023(R5)年度	2024(R6)年度	2030(R12)年度
				基準 [削減率]	基準 (削減率)	目標	目標	実績			基準 (削減率)	目標	目標
								値	対基準 削減率	判定			
二酸化炭素排出量の削減	二酸化炭素排出量	全社	kg-CO2※1	3,609,249	2,610,176 [-28%]	2,584,074 (-1.0%) [-28%]	2,531,871 (-3.0%) [-30%]	2,272,753	(-12.9%) [-37%]	○	2,272,753 [-37%]	2,250,025 (-1.0%) [-38%]	1,948,994 [-46%]
	電力使用量		kWh	676,581	435,107 [-36%]	430,756 (-1.0%) [-36%]	422,054 (-3.0%) [-38%]	891,528	(104.9%) [32%]	×	891,528 [32%]	882,613 (-1.0%) [30%]	365,354 [-46%]
	ガソリン使用量		ℓ	54,139	32,743 [-40%]	32,416 (-1.0%) [-40%]	31,761 (-3.0%) [-41%]	29,624	(-9.5%) [-45%]	○	29,624 [-45%]	29,328 (-1.0%) [-46%]	29,235 [-46%]
	軽油使用量		ℓ	1,191,039	890,110 [-25%]	881,209 (-1.0%) [-26%]	863,407 (-3.0%) [-28%]	824,421	(-7.4%) [-31%]	○	824,421 [-31%]	816,177 (-1.0%) [-31%]	643,161 [-46%]
自社発生廃棄物の削減	コピー用紙使用量	全社	枚	140,857	402,407	398,383 (-1.0%)	390,335 (-3.0%)	404,001	(0.4%)	×	404,001	399,961 (-1.0%)	76,063
	一般廃棄物のリサイクル率	本社	%	23.0	31.0	31.3	31.9	34.0	(3.0%)	○	34.0	34.3	33.6
	建設廃棄物のリサイクル率向上(解体現場)		%	98.7	96.2	97.2	99.1	94.9	(-1.3%)	×	94.9	95.8	100%を目指す
水使用量の削減	上水使用量※2	本社	m3	1,481	4,889	4,840	4,742	4,878	-(0.2%)	×	4,878	4,829	
本来業務	受託廃棄物のリサイクル率向上(処理場)	SRC	%	98.1	94.2	95.1	97.0	92.8	(-1.4%)	×	92.8	93.7	100%を目指す
環境性能向上・サービス改善	社会貢献活動	全社			一初年度	定期的な清掃	定期的な清掃	定期的な清掃		○	定期的な清掃	定期的な清掃	
	環境負荷低減の取組み				一初年度	FIT証書購入※3		電動式大型BHテスト導入				有線式電動中型BH導入	

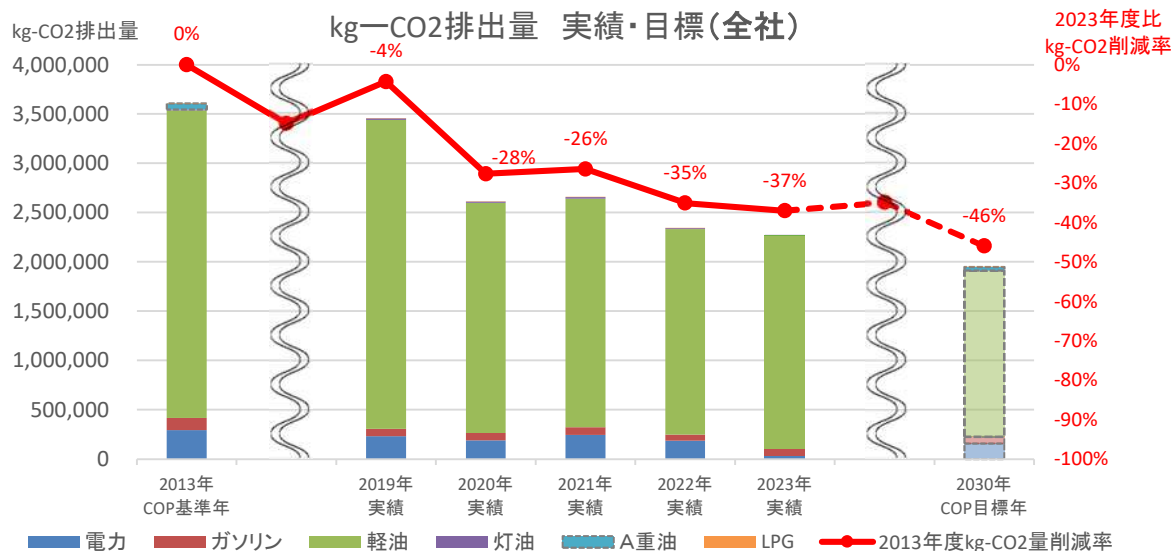
※1 購入電力の調整後二酸化炭素排出係数は 本社:0.462kg-CO2/kwh(2022/令和4年度)九州電力株式会社より、SRC:0.428kg-CO2/kwh(2022/令和4年度)株式会社新出光より

※2 篠栗SRCは雨水・湧水使用の為、不計測。 本社のうち、現場利用分については売上高に伴い変動する。

※3 九州電力(株)との“FIT非化石証書または非FIT再エネ指定非化石証書の使用により実質的に再生可能エネルギー電気及び実質的にCO2排出量ゼロの価値を有するものと扱うことができる電力供給契約”の締結を表す。

4. 当年度環境経営計画の取組結果とその評価 及び次年度の環境経営計画

CO2排出量の削減



※目標値は前項目「3. 環境経営目標」の通りとする

取組計画

- ① 電動油圧ショベル、電動フォークリフトを導入し、CO2削減を進めながら、重機・車両の効率的な運用に取組みます。
- ② 老朽化した重機、運搬車両を随時更新し燃費向上に取組みます。

取組結果

- ① バッテリー搭載大型電動油圧ショベル（20tクラス）及びバッテリー搭載電動フォークリフト導入。
- ② 運搬車両1台・ホイールローダ1台入れ替え

保有クリーンエネルギー機

- ・電気式油圧ショベル 3台
- ・ハイブリッド油圧ショベル 1台
- ・バッテリー駆動式ミニショベル 1台
- ・電気式破砕機 1機
- ・電気自動車 3台
- ・敷地内EV充電スタンド

今後も随時増台予定

評価

●当年度は、従来から取り組んできた重機・車両の電動化や入替えをさらに推進し、大型解体工事の受注が続き、売上高も前年比20%増加する中、バランスの取れた環境経営に努め、CO2削減の当年度目標を達成しました。

- 電気使用量は、大型工事現場での使用等で前年を上回ったものの、本社、篠栗SRCの施設において、再エネ指定化石証書購入により、CO2削減となりました。
- また、軽油使用量は、工事現場の稼働増に対し、篠栗SRCでの電動重機導入により全体で削減し、目標を達成しました。

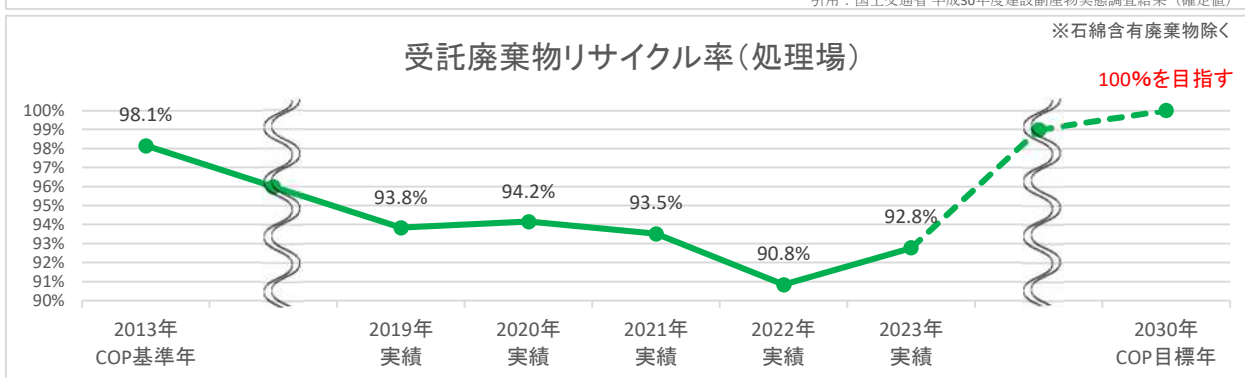
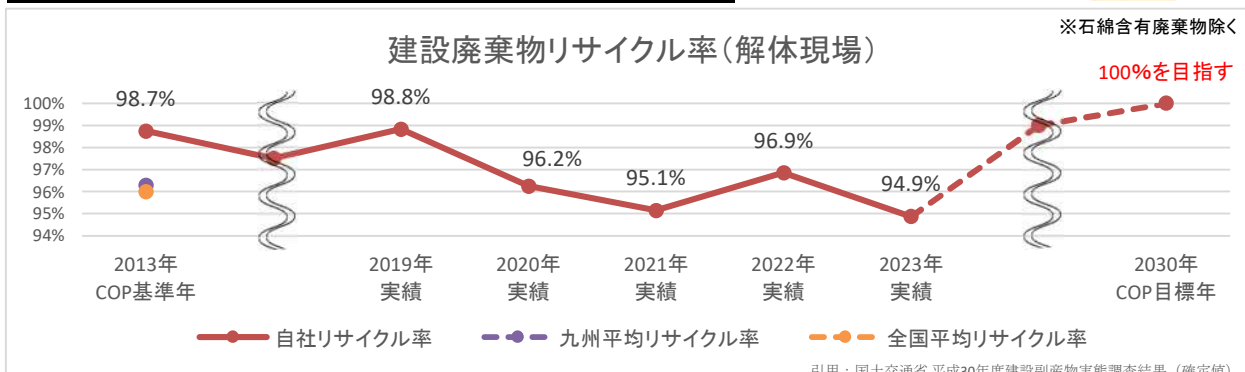


次年度の環境経営計画

- ①電動油圧ショベルを導入し、篠栗SRCの中間処理施設における重機・車両・設備の効率的な運用に取組みます。
- ②老朽化した重機、運搬車両を随時更新し燃費向上に取組みます。

4. 当年度環境経営計画の取組結果とその評価 及び次年度の環境経営計画

建設廃棄物及び受託廃棄物のリサイクル率向上



※解体現場・処理場の両リサイクル率向上について、目標値は前項目「3. 環境経営目標」の通りとする

取組計画

- ① 篠栗SRCに、木くず破砕機の新機種への入替えを実施します。
- ② 篠栗SRCにおける混合廃棄物の中間処理施設について、設備の連係や効率的な運用のレベルアップを図り、リサイクル化の精度向上とコスト削減の両立を図ります。

取組結果

- ① 木くず破砕機を新機種へ入れ替え、処理能力が3.7 t / 日から46 t / 日と約12倍に増加。
- ② 篠栗SRCの中間処理施設の運用について「ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金」の対象事業として申請し決定を受けました。

評価

- 木くず破砕機の新機種入替え
処理能力の向上により、処理数量に加え、良質なチップの生産が可能となり、サーマルリサイクル（バイオマス燃料等）拡大が見込める。
- 当年度のリサイクル率の状況
 - ・ 建設廃棄物・・・解体工事増により低下
 - ・ 受託廃棄物・・・リサイクル率100%のコンガラ等の割合が低下し、全体で低下



新木くず破砕機

次年度の環境経営計画

- ① 篠栗SRCにおいて、ものづくり生産性向上事業を実施し、設備の効率的な運用とリサイクル率の向上を図ります。
- ② 解体工事現場において、産廃種別を明確にし分別を徹底します。

4. 当年度環境経営計画の取組結果とその評価 及び次年度の環境経営計画

水使用量削減・社会貢献活動・環境負荷低減の取組み



※実績・目標値は前項目「3. 環境経営目標」の通りとする

取組計画

- ① 解体現場における水の使用は、工事に伴う周辺への粉じん等の発生抑制を最優先にしながら、極力節水に取り組みます。
- ② 事業所周辺の定期的な清掃を実施します
 - ・本社周辺の早朝清掃
 - ・篠栗SRC周辺の県道清掃・樹木伐採
- ③ 篠栗SRCの地元住民への施設案内会や環境経営の取組みの説明会を実施します。
- ④ キッザニア福岡のオフィシャルアクセラレーターとして、同社が実施する地域の青少年を育成するプロジェクトに参加し、青少年の健全育成を支援します。

取組結果

- ① 水使用量は前年比減。
- ② 今年度実施回数 本社：毎朝、篠栗SRC：清掃2回
- ③ 本年度、説明会は実施しなかったが、地域住民を訪問するなどの交流実施。
- ④ 24年1月 キッザニア主催“福岡ドリームフェスティバル in九州大学”のワークショップを見学。

評価

- 水使用量については、解体工事現場の状況により変動しますが、各現場の節水活動を積極的に実施し、前年比減少しました。
- 社会貢献・環境負荷低減の取組みについては、当年度の計画に沿って実施し、成果をあげました。
- 事業所周辺の定期的な清掃活動は、本社、篠栗SRCとも定着しており、これを継続していきます。
- 「キッザニア福岡」のスポンサー（オフィシャルアクセラレーター）として、青少年育成活動を支援しています。



清掃活動



ワークショップ見学

次年度の 環境経営 計画

- ① 解体現場における水の使用は、工事に伴う周辺への粉じん等の発生抑制を最優先にしながら、極力節水に取り組みます。
- ② 事業所周辺の定期的な清掃を実施します
 - ・本社周辺の早朝清掃
 - ・篠栗SRC周辺の県道清掃・樹木伐採
- ③ 篠栗SRCの地元住民への施設案内会や環境経営の取組みの説明会を実施します。
- ④ キッザニア福岡のオフィシャルアクセラレーターとして、同社が実施する地域の青少年を育成するプロジェクトに参加し、青少年の健全育成を支援します。

5. その他サステナビリティ



安全大会開催

無事故無災害の実現と安全意識向上のため、年1回来賓を招き安全大会を開催。安全を重視することが、企業経営と存続の基盤であり、責務であることを全社員、全協力会社の皆様が認識し、一層の安全活動の推進で災害ゼロから危険ゼロを目指していきます。



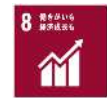
定期安全衛生協力会

協力会社との共存共栄・相互繁栄と災害防止・安全衛生の推進を目的とし、協力会【栄和会】を発足。定期的な協議会や情報発信で和をもって安全衛生推進に取り組めます。



安全運転講習開催

交通安全意識向上を目的に、ダンプ運転手を対象とした講習会を外部講師を招いて開催しています。



6. 環境関連法規などの遵守状況及び違反、訴訟等の有無

主な対象法令等一覧

法的及びその他の要求事項 (対象法令等)	遵守状況		法的及びその他の要求事項 (対象法令等)	遵守状況	
	本社	篠栗SRC		本社	篠栗SRC
建設リサイクル法	○		じん肺法		○
騒音・振動規制法	○		家電リサイクル法	○	
大気汚染防止法	○	○	消防法	○	○
石綿障害予防規則	○		フロン排出抑制法	○	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	○	○	浄化槽法		○
PCB廃棄物処理特別措置法	○		下水道法	○	
最終処分場の技術上の基準を定める省令		○	労働安全衛生法		○

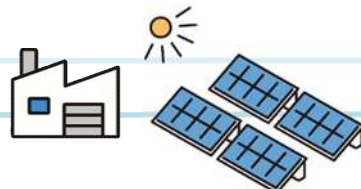
※篠栗SRC部門には飯塚SECと古賀営業所を含む

環境関連法規などの一覧及びそれらの遵守状況を確認した結果、環境関連法規への違反はありませんでした。尚、関係当局よりの違反の指摘、利害関係者からの訴訟等ありません。

7. 代表者による全体評価と見直し・指示

今年度の活動状況

3期にわたって、新破砕機「バリラ」、高性能選別機「バリスティックセパレーター」を順次投入し、今年度、木くず破砕機の入替えを実施した。これにより、リサイクル率向上とマンパワーに頼らない効率的な運用をしていく体制を構築し、今年度の環境経営活動においても、持続可能な社会の実現に向けた環境負荷の低減のための取組みを推進することができた。



活動結果における着眼点、課題

今年度の活動結果の内容について、以下の点に着目した。

- ①CO2排出量は、基準値に対し12.9%削減と目標の3%削減を大きく上回る成果となった。
これは、設備、重機の電動化を進め、電力使用量は増加するものの、軽油使用量を削減し、本社、篠栗SRCの主要拠点における購入電力を、引き続き証書購入による再エネ電力としており、CO2排出量削減を実現した。
- ②大型解体工事の受注が増加し、売上高も前年比20%増となる中で、CO2排出量やリサイクル率の変動への影響が大きく、これらへの対応を検討していく必要がある。
- ②リサイクル率向上に向けた設備投資計画のとおり、順次、設備導入を進めており、設備間の連係と効率的運用の高度化が重要である。
- ③社会貢献の観点から、事業所周辺の清掃やキッザニア福岡への参画などの活動が社内に定着した。さらに、地元地域住民の事業への理解を深めていただく活動も重要である。

これらを踏まえ、今後の環境経営活動のあり方を検討していく必要がある。

今後の活動の方向性（上記の結果、評価を踏まえて）



- ①使用電力の実質的なCO2排出ゼロの継続
 - ・証書購入による実質的なCO2排出ゼロ化を継続していく。
 - ・軽油使用によるCO2排出量が大きいことを踏まえ、いわゆる「カーボンオフセット」を研究する。
- ②リサイクル率アップに向けた施策（選別、破砕能力の向上）
 - ・高性能選別機、新破砕機、木くず破砕機等の各設備の連係強化と効率的運用態勢の構築
 - ・新設備導入に伴い新たなリサイクル商品の可能性検討
- ③社会貢献活動、環境負荷低減の取組み
 - ・木くず破砕機の入替えに伴い、様々なチップ需要に対応することも可能となるため、地元の篠栗町におけるゼロカーボンシティ構想（バイオマス発電など）への貢献も展望していく。
 - ・篠栗SRCの地域住民や篠栗町との交流、施設案内会や環境経営への取組み説明などの活動を定期的実施し、積極的に推進していく。
 - ・キッザニア福岡のオフィシャルエクセラレーターとして、イベントに参加するなど青少年の健全育成を支援していく。



環境経営方針の推進

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



三和興業は、リサイクル事業の「3R」をベースにゼロエミッションを究極の目標としているが、それを推進するため、「SDGs」への参加も表明し、事業活動を展開していこうと考えている。

事業活動にあたって、CO2排出量の削減やリサイクル率向上に向けた直接的な諸施策に加え、「持続可能な社会」と「環境」に関連した、地域への貢献活動やSDGsの取組みも積極的に推進していきたい。